

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

「私の友だから知らせよう」

私達の世界には色々な神々が祭られています。それは時に、過去に生きた人間であったり、狐や、蛙であり、それらが神々として祭られています。ある国では牛や象や猿が神となります。そうです、私達はありとあらゆる神々を創作してきました。

その神々の製作者は「どんなかたちがいいかな」「どんな色がいいかな」と考えながら、これらの神々を造りました。しかし、時がたてばシロアリに食われたり、色も褪せてきますから、私達はまた手を加えて神々を修復しなければなりません。

聖書に記されている神は人間の側からの創作や援助というものを一切、必要としません。あちらが天地万物と私達を造り、諸々の命を保たれているお方であり、私達はその神々を創ったり、修復するということはありません。私達の側からその創造者に手を加えることはありえないのです。

このように神と私達は完全に次元の異なる存在であります。その私達に対して、神の一人子、イエス・キリストは私達の意表をつくようなことを言われました。そうです、主イエスはなんと我々を「友」と呼ばれたのです。

「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」（ヨハネ15章14節－15節）

私の好きな映画にスティーブン・キングが書きました「スタンドバイミー」という映画があります。オレゴン州の田舎町に住む12歳の四人の少年たちがある夏、一泊二日の冒険の旅に出かけるという映画です。森の中をはしる電車の線路伝いに彼らは旅を続け、時には歌い、踊り、またくだらない話に笑い転げます。

そのような中、彼らは心の中にある痛みを分かち合うようになります。一人の子はフットボールの花形選手だった兄だけに親の関心はあり、しかし、その兄が事故によって死んでから、親の心に自分はいないことを心の傷としていました。一人の子は父親から虐待されて育ち、もう一人は家庭が壊れていて貧しく、それゆえに学校の教師から盗難を疑われた過去を明かし、自分は誰からも信頼されていないと涙ながらに語りました。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

この少年達の一人が大人となって作家となります。彼は先に親の心に自分はいないのだという悲しみを抱えていた少年であり、物を書く才能を持っている彼に、誰からも信頼されないと涙した少年は「将来、俺たちのことを書けばいい」と励まします。そして、その言葉どおり、彼はその夏の、この友達との出来事を小説として書き上げ、その最後の一行にこう書き記しました。

「1959年、12歳の夏。二日間の冒険旅行。あの時のような友達は再び現れなかった。誰でもそうなのではなからうか」。

この後、彼らは互いに町を出、その関係は遠ざかり、各々が自分の人生を生きようとする。しかし、この作家にとって、あの12歳の夏、二日間ではありましたが、共に過ごした者達は人生のかけがえのない友となりました。その後、彼らがどんな人間になっても、どんな所を通ることがあっても、彼らは互いに友なのです。そう彼らはあの二日間、腹を抱えて笑い、誰にも明かしたことの無い心を互いに分かち合ったのですから。そうです、私達が自分の心の中にあることを包み隠さずに話し、それが受け止められる時、私達はかけがえのない友を得るのです。

イエス・キリストは我々を友と呼びかけます。なぜ？「わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」（ヨハネ15章15節）

50年ほどの自分の人生を振り返り、また牧師として多くの方達の人生と接する機会が与えられている中で、気がつかされていることがあります。それは私達はその人生の中でなす「決断」の大切さということです。

誰もが毎日、何かしらの決断をします。「決断」と言いますと大げさに聞こえるかもしれませんが、今日はどの靴をはこうかと考え、一つの靴を選ぶということも、ある意味、私達の決断でありましょう。

靴を選ぶことは重大なことではありませんが、私達が日々成す決断により、物事が動きます。その物事が動くことにより、私達はある所に導かれていきます。そんな決断を無数にして、今、現在、行きついているのが今朝の私達です。そうです、私達は多くの決断に導かれて、今、ここにあるのです。そして、この私達の決断により、これからの私達の人生も導かれていくのです。

このように決断によって導かれるものが私達の人生であるのなら、誰もが心から願うことは、私達はその時々で最善の決断をしたいということではないでしょうか。しかし、ここで問われることは「最善の決断」とはどのようにして成されるのかということです。そう考えます時に、私達の決断は、私達はその時に得ることができる「情報」によってなされるということが分かります。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

私達が病気になった時に、私達はまず、どうしたら癒されるのだろうかと考えます。そのために医者アドバイスを聞き、今日なら無数のインターネット上の情報を私達は検索するでしょう。そして、その情報の中から、これぞ最善だと思われるものを参考にして、どのような治療を受けるかという決断にいたります。

就職する時、その会社のプロフィールを見、給料を見、待遇や、通勤時間まで並べて、それらの情報をかんがみて決断をします。このことはどんな時計を買うのかということから、どんな結婚相手と結婚するのかということにまで共通するものです。

このように私達の決断はこのような情報を考慮しながらなされます。しかし、問題は熟慮して決めたその決断が、実は思い描いていたこととは異なるところへと私達を導くということが私達の人生にはあるということです。そして、それは稀なことではなく、よくあることなのです。

このことを考えます時に、これらのことに処するために大切なポイントは、私達がどんな情報を得たのかということにあるように思われます。そうです、その情報はできる限り、正しく、最善であることが当然、願わしいのです。

私が今、お話ししている情報の多くは誰かが私達に提供してくれたものです。それは直接、誰かが私達に教えてくれたものであったり、インターネットの中で誰かが書き残したものであるかもしれません。

なぜ、私達が得た情報をもって、決断したことが時に思いがけないことへと私達を導くのでしょうか。もしかしたらその情報はフェイクだったのかもしれない。私達の願いとか欲望というものが強すぎて、冷静に情報を集めることができなかつたのかもしれない。自分の願いを肯定する情報だけを知らぬうちに、選んでいたのかもしれない。

得てして、そのような時に集める情報というのは、その時に直面していることに対する情報であり、その先を見通すようなものではないのかもしれない。例えば自分の結婚相手を選ぶというような時には、その人に関する情報を得、それに基づいて結婚を決断しますが、その時に得た情報は実際に一つ屋根の下で暮らし、喜怒哀楽を共に共有するという結婚生活のことまでには及ばないことが多々あるのです。夫婦である者、お互いさまです。

皆さん、もし、皆さんが神という存在を信じるのなら、私達が得る情報において最善のものは神様が私達にくださる情報だとは思いませんか。それは一時的な私達の願いを叶えるというようなところに基づいて私達に語られる者ではなくて、私達の人生全体にとって最善のものに私達を導くものを与えてくれるものです。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

そうです、ここから先、このことについて考えてみたいと思います。そこで、ここまで「情報」と呼んでいたものを、これから「神の御言葉」としてお話しします。そして、今日のイエス様の言葉をもう一度、思い起こしたいのです。

「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」（ヨハネ15章14節－15節）

イエス様はここで言われたのです。「わたしの父なる神から聞いたことを皆、あなたがたに知らせた」。この情報は明らかに私達が入づてに聞いたり、インターネットでどこの誰が書いたのか分からない記事（よく考えたらこんなに無責任な記事はありません）とは異なるのです。人が考え得るものには限界があります。しかし、イエス様はここで私が父なる神から直々に聞いたことを私達に知らせたと言われたのです。

そうです、私たちが聖書の御言葉を通して知ることができるイエス様の言葉と行いとは、この世界を熟知され、同じように当然、私達を創造されたゆえに、私達が生きる最善の生き方を完全に知っておられるお方から聞いたことなのです。

このことがイエス・キリストの言動を通して私達の前に明らかにされているということなのです。そして、このことに対してイエス様は言われるのです。私は包み隠さずに父から聞いたことを全て、あなたに示す。そして、そのことを行うのならあなたは私の友なのだ。友であるのだから、ますます私はあなたに神から聞いていることをあなたに語り続けよう。

主にある皆さん、私達が互いに交わす言葉と神が私達に与える言葉の違いは何ですか。一番、大きな違いは私達が互いに交わす言葉というものは、時に非常に近視眼的であり、主観的です。そうです、それは先を見通して語られるような言葉ではないことが多いのです。「こんなはずじゃなかった」という思いがそれを証明しています。

もし、私達がこれからも成していくであろう諸々の決断の中に、このイエス様が父なる神様から直々に聞いて、私達に知らされている言葉があり、それが私達がこれから成す諸々の決断の中に反映されていくのなら、私達の決断はおのずと神様の御前に最善のものへと導かれていくのではないのでしょうか。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

ここで一つ、私達の交わすレベルの会話ではない神の言葉を一つ、お分かちしましょう。それは紀元前750年に生きた預言者イザヤを通して神が語られた言葉です。それはこのように始まります。

¹ 「さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。² なぜ、あなたがたは、かてにもならぬもののために金を費し、飽きることもできぬもののために労するのか」（イザヤ55章1節-2節）。

この言葉は明らかに私達の視点とは異なるところから私達を見ている存在が語られている言葉です。私達の目には隠されていても、このお方の目に私達は全く自分の糧にならないことのために金を費やし、決して満たされることができないようなもののために没頭し、労しており、しかも、それに全く気がつかずに生きてるように見えるのです。そのただ中にいるゆえに、近視眼的、主観的になって、自分が見えない私達なのです。しかし、神はその視点からはっきりと、そんな私達の生き方に疑問を投げかけているのです。そして、こういうのです。

わたしによく聞き従え。そうすれば、良い物を食べることができ、最も豊かな食物で、自分を楽ませることができる。³ 耳を傾け、わたしにきて聞け。そうすれば、あなたがたは生きることができる。わたしは、あなたがたと、とこしえの契約を立てて、ダビデに約束した変らない確かな恵みを与える。⁴ 見よ、わたしは彼を立てて、もろもろの民への証人とし、また、もろもろの民の君とし、命令する者とした。

私と与えるものをあなたたちは得るべきだ。そうすれば最も豊かなもので自分を楽ませることができる。そうすれば、あなたは本当の意味で生きることができるのだ。そして、こう言います。

⁶ あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。⁷ 悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。

今でこそ、わが一人子イエスに会え。イエスに会えるうちに会え。今が、その時なのだ。イエスを友とし、彼に呼び求めよ。そして、彼に伝えてある私の命の言葉をあなた方も受けよ。神に立ち返れ。あなたがどんな人生を送っ

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

てきたとしても、神は豊かにあなたをゆるす。あわれみを施す。そして、主はあの有名な言葉をこの後に語られるのです。

⁸ わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。⁹ 天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。

私の思いは私達が考えているようなもの、私達が取り交わすようなものとは異なる。糧にならないもので自分の人生を決めるな。飲んでも飲んでも渴くようなところに導かれるような人生を選ぶな。私の思いはあなたが考えているものよりもはるかに高いのだから、そして、そのわが想いは既にわが一人子イエスに伝えてあり、そのイエスは既にあなたにそのわが想いを余すところなく語り聞かせているのだから、それに聴き、それに従って己が人生を歩んでいきなさい。そして、さらにこう続きます。

¹⁰ 天から雨が降り、雪が落ちてまた帰らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種まく者に種を与え、食べる者にかてを与える。¹¹ このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。¹² あなたがたは喜びをもって出てきて、安らかに導かれて行く。山と丘とはあなたの前に声を放って喜び歌い、野にある木はみな手を打つ。¹³ いとすぎは、いばらに代って生え、ミルトスの木は、おどろに代って生える。これは主の記念となり、また、とこしえのしるしとなって、絶えることはない」。

私はこの世界を法則のうちに作り、今日も保ち続けている。それは天から雨が降り、その雨が大地を潤し、そこから種が実り、それを食べる者達の糧となる。すなわち、天からあなたに下さるものはむなしく終わるものではないのだ。

同じように私がイエスを通してあなたがたに語る言葉は、あなたたちが取り交わす言葉とは異なり、それが空しくわたしにかえるようなものではない。わたしの喜ぶことを成し、わたしが命じおくれたことを成す、その内に私の力を宿す言葉なのだ。ゆえにその言葉は、あなたを喜びと平安に導く。あなたがたが歩いてきたいばらの道には、大地に根を下ろし、大空に向かって力強いいとすぎが育ち、あなたがたの心身を傷つけてきた茨に代わって、香り豊かなミルトスになるのだ。このことは記念となり、永久に絶えることはない。我が子よ、私がイエスに聴かせた言葉に生きよ。命の言葉を選べ。そして、命の道を選べ。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

主にある皆さん、私達を友と呼ばれるイエス様が父なる神から聞いた言葉、この言葉を自分の人生の礎とし、それを諸々の私達の決断のために用いないということは、どんなに私達にとって大きな損失であることでしょうか・・・。

ある時、イエス様はこうも言われました。「④そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを殺しても、そのあとでそれ以上なあにもできない者どもを恐れるな。⑤恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言うておくが、そのかたを恐れなさい」(ルカ12章4節—5節)

このところにも私達が互いに取り交わすような類の話ではないことが書かれています。そりゃそうです、神から語られる言葉は「主の思いは私達の思いよりも高いのです。主の道は私達の道よりもはるかに高いのです」から。

私達にとりまして「生きるか死ぬか」ということは究極的な関心事です。しかし、イエス様はその死ぬということ、おそらく私達にとりまして最も大きな恐怖となりうる、誰かに殺されるということについても、神の視点をここに告げています。そう、からだを殺しても、それ以上、何もできないものを恐れるなというのです。

そうではなく、神は「体を殺しても、その後でそれ以上なにもできない者どもを恐れるな、私たちが本当に恐るべき者は、人が死んだ後で、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい」というのです。

これからの私達の人生に、このようなことに関係するようなことがあり、そこから大きな決断が迫られることがあるかもしれません。その時に私達に語りかける主イエスのこのような言葉は私達のその時の決断に大きな影響を与えることでしょう。

わたしたちは色々なことに恐れます。「これも恐ろしいものだ」「あれも恐ろしいものだ」と私達を取り囲むこの世の情報は私達の耳元でささやくのです。私達の心の鼓動は激しくなり、私達はそれらを恐れ、性急に物事を決めようとしています。

しかし、天地万物を支配される神は私達に語りかけるのです。「恐れるな！」と。私達が本当に恐れるお方は人が死んだ後に、さらに地獄に投げ込む権威のある方なのだ。だから、今、あなたの耳もとで語りかける恐れという言葉に耳を貸すな。恐れるべきものではないものを恐れ、それゆえに私達が導かれる場所に生きるのか、それとも本当に恐れるべきものを知り、それゆえに私達が導かれる場所に生きるのか、それを決めるのは他でもない私達なのです。

2018年8月10日「私の友だから知らせよう」

天地は神により造られ、人には知りえない万物の法則を知り得るお方、人間というものを知り尽くしているお方が私達に語りかけていること、それを心に踏まえて決断をするということ、これ以上の決断がありますでしょうか。

主イエスを友として歩む時に、私達は自分の人生で知りえないはずのことを知ることができるのです。悲しみの中にでさえ、その中に働く神の愛と配慮を知ることにより圧倒されることすらあるのです。

私達が本当に必要なことは無数の情報ではありません。主イエスが父なる神様から聞いたこと、それをそのまま私達に知らせたというイエス様の言葉なのです。

私達を友と呼ばれる主イエスは誰よりも私達のことを知っています。私達のことを知っているお方が、私達のために父なる神から聞いていることを、惜しみなく語りかけているのです。この主の言葉が私達のこれからの諸々の決断の中に反映されていくのなら、私達の人生はこれまでのものとは異なるに違いありません。

神との親密な交わりを確保しましょう。神について思いめぐらして生活しましょう。そうするならば、私たちは私たちの人生に関わっておられる驚くべき神の姿を知るようになります。もし、今日、まだこの神様を友として受け入れていない方がいましたら、神様の前に一歩近づきましょう。神様はあなたを今日も「我が友よ。私があなたに語りかけている言葉と共に、その人生を歩んでいかないか」と語りかけているのですから。

お祈りしましょう。